第３回　仙台市音楽ホール検討懇話会

日　時　平成30年5月28日（月）　14:30～16:30
場　所　市役所本庁舎２階　第二委員会室
出席者　今井邦男委員、垣内恵美子委員、庄子真岐委員、高田登志江委員、三塚尚可委員、宮原育子委員、村上ひろみ委員、天野元委員
次　第　１．開会
２．議事
(1) 第２回懇話会の議論の整理について
(2) 施設の構成と規模の考え方、事業運営の考え方、管理運営の考え方について
３．閉会
配布資料　資料１　第２回仙台市音楽ホール検討懇話会　議事要点
参考資料　大ホールの想定「2,000 席程度の、生の音響を重視した高機能な多機能ホール」
資料２～４　施設の構成と規模の考え方、事業運営の考え方、管理運営の考え方について
参考資料　事業運営・管理運営についての参考事例資料

１．開会

２．議事

（会議公開の確認→異議なし）
（議事録署名については、今井副会長及びもう一人（五十音順）の委員に依頼（今回は庄子委員）→異議なし）

(1) 第２回懇話会の議論の整理について

○今井副会長
第２回懇話会の議論の整理について、事務局から説明をお願いします。
○事務局（株式会社政策技術研究所代表取締役）
（事務局より資料１に基づき説明）
○今井副会長
ただいま事務局からの説明がありました件について、早速ですが、委員の皆様から何かございましたら、ご発言いただきたいと思います。
○村上委員
私自身が忘れていたことなのですけれども、もう一度確認させてください。
３の機能構成についての（４）の機能による概念設定についての３ページの③番、最も重要なのは人材育成機能であるというところの、この人材とは何を指して、それを育成するの

かというところをもう一度教えていただけたらと思います。

○今井副会長

お願いします。

○事務局（株式会社政策技術研究所代表取締役）

人材育成機能、多様な活動が含まれますが、特にここで想定しているのは、この施設が従来のホールを超えて、例えば文化力を発揮、つまり復興過程で文化力が果たした成果をさらに発展させていって地域の多様な課題に生かしていくなど、従来にはない機能も想定をしておりますので、それを担う人材についてです。前回、海外では各施設にそのような人材がいるというご意見もありましたが、日本ではまだ少ない現状です。そのような人材をまず育成することがこの施設運営にも必要と考えていますし、そのような人材が地域の施設にもいて、活動を展開していくことが望まれます。ここの部分は、従来から他のホールで言われている人材育成、それは例えば若い人を育てるとか、舞台技術的な側面の指導をするとか、そういうことも当然にあると思いますけれども、他と違って強調するのはこの部分と思います。

○今井副会長

よろしゅうございますか。

○村上委員

プロフェッショナルということですね。

○事務局（株式会社政策技術研究所代表取締役）

プロフェッショナルといいますか、ホールを運営していく上でのプロフェッショナルということになります。あるいは、事業を推進していく専門家になります。

○今井副会長

芸術家じゃなくて、芸術をプロデュースする側の専門家ですね。

○事務局（株式会社政策技術研究所代表取締役）

そうです。芸術家そのものを育成するということではないです。ありがとうございます。

○今井副会長

他に何かございませんか。

なければ、よろしゅうございますか。それでは、この議題については、これで終わらせていただきます。

(2) 施設の構成と規模の考え方、事業運営の考え方、管理運営の考え方について

○今井副会長

続きまして、議事の２の施設の構成と規模の考え方、事業運営の考え方、管理運営の考え方について、事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局（株式会社政策技術研究所代表取締役）

（事務局より資料２～４に基づき説明）

○今井副会長

たくさんいろいろな話題が出ましたし、情報量もたくさんありました。

まず、１つ目が施設の構成と規模の考え方、２つ目が事業運営の考え方、３つ目が管理運営の考え方が述べられまして、様々な事例も添えられてございました。膨大な情報でございますので、この議題についてご意見を頂戴してまいりたいと思います。

垣内委員、兵庫のことについてお詳しいということで、口火を切っていただけますか。

○垣内委員

それでは、ご指名でございますので、兵庫の話を補足説明させていただこうと思っております。

兵庫県立芸術文化センター、今ご紹介がありましたように、大変成功した事例と言われております。実際、年間の利用者数でいうと、チケットを払って、あるいは無料のものもあるかもしれませんけれども、劇場関係の公演を見に来られる方が年間50万人ぐらい。公演以外にも様々なフェスティビティーを周りでやっております。例えばオペラをやるときには、前夜祭として、佐渡監督が例えばカルメンをやるときにはドン・ホセのコスチュームを着て、劇場の外でいろいろな音楽のご紹介だったり、このオペラのご紹介だったりを近隣の方を集めてやるというお祭りみたいなものがございまして、そういう無料のものも含めますと、恐らく70万人ぐらい年間いらっしゃっているというような施設でございます。

この施設は2005年にできまして10年以上たったわけですけれども、この施設ができる前ですが、この場所が西宮で、神戸と大阪の中間にあるということで、なかなかお客さんが来ないのではないかというふうに言われた施設でもあると聞いております。つまり、大阪の方は大阪のフェスティバルホールなどに行くでしょうし、神戸の方は神戸のホールに行くでしょうから、中途半端な西宮にあって誰が来るのかという話だったらしいのですが、周辺の芦屋とか、宝塚とか、なかなか大阪にいけない方あるいは神戸に行けない方が来るようになった。要するに潜在的なマーケットが開いたという、それによって、50万人、70万人というお客さんが来るのですけれども、ここでのポイントは、大阪のフェスティバルホールなどの競合するライバルの劇場さんたちのお客さんの数が減っていない。これがポイントだとゼネラルマネージャーさんが力説しています。つまり、これまでいろいろな理由で来られなかった人たちが来られるようになったということで、ライバル同士が競合し合って、小さな限定されたマーケットを争うのではなく、新しく大きなマーケットを広げたというようなことが言われております。

この仙台にもいろいろなホールがあるというのはお聞きしております。楽都ですから、もう既にいろいろな活動がされているのですけれども、この仙台の中心部だけではなくて、今ご説明にあったように、東北あるいはその先までも見据えて、新しいマーケットが顕在化していくようなホールになるといいなというふうに思って拝聴しておりました。

兵庫県立芸術文化センターの場合、非常に特殊な事例という部分もございます。もう1点だけご説明させていただきますと、実は館長が井戸知事です。県立の施設で知事さんが館長というのはものすごく大きな後ろ盾といいますか、自治体がつくっている施設ですので、自治体の姿勢をこれ以上明確にすることはできないくらいの姿勢を示しているのではないかというふうに思います。こういった施設というのは日本ではなかなかないのですけれども、例えばフランスだったら、ブランリというミュージアムをつくったときには、カタログの最初のページにシラク大統領の写真が掲載されて挨拶文が出るくらいの、要するにつくった方々のその思いというのがはっきり出るというのが一般的なやり方だと思うのですけれども、日本では珍しくここはまさに井戸知事が前面に出てきて、館長を務めていらっしゃるということです。仙台市もこれから21世紀をともに生きていく施設ですから、それなりの覚悟といいますか、体制もつくっていく必要もあるのかなと外から見ていて思いました。

以上です。

○今井副会長

どうもありがとうございました。いろいろ興味深い情報でございました。

それでは、引き続き皆さんにお話しいただきますので、ご意見を頂戴したいと思います。

それでは、宮原委員お願いします。

○宮原委員

委員会になかなか出られなくてしばらくぶりなのですが、今回ご提示いただきました資料を拝見して、大分いろいろな機能とか、それから、大事にしていくべきところというのがはっきりして、今日はお話を伺いながら、これぐらい整理できて、まだ課題もたくさんあるのですけれども、これから懇話会を離れていろいろな方に広めていくときに、かなり共有できるような方向性は出てきたのではないかなというふうに思いました。

ただ、一方で、かなり大規模な施設になっていきますので、これを今、例えば垣内先生がおっしゃったような、神戸で賑わいを創出していったり、潜在的ないろいろな利用者の方たちを増やしていくという観点から見ると、仙台市自体が、ないしは仙台市の市民の皆さんも含めて、この音楽に関する活動とか、それから認識というものを今まで以上に深く関心を持っていただく、そういった層の掘り起こしというのが非常に重要ではないかなというふうに思います。ですから、建ってから、前もお話したかもしれませんが、建ってからどうするかということの一方で、建つ前に、ここの完成に至るまでに仙台を中心として、東北やいろいろな地域の人たちの音楽に関する楽しみ方の喚起、これをどのように工夫していくかということも一方で重要なのかなと思いました。

今、観光も随分コンテンツツーリズムであるとか、それから、コンサートでライブツーリズムという言葉も最近は出てきておりまして、特に若い人たち、大学生あたりもかなりライブに行くために日々アルバイトをしているような状態で、かなり遠距離に、飛行機に乗って、国内でも福岡に行くなどですね、移動がすごいなと思っています。学生によっては韓国まで、ソウルまで１泊で出かけるという弾丸ツアーへ行くということもしていまして、多分これから若い人たちのそういった層の人たちというのが好む音楽というジャンルももちろん考えなければいけないのですけれども、いわゆる音楽ホールで想定されているような非常に重厚といいますか、クラシックの音楽であるとか、伝統芸能であるとかということプラス若い世代、次世代の人たちが音楽に求めてくるもの、ないしは好む音楽のジャンルといったようなものの中で、そのホールの考え方、回し方というのを考えていく必要があるのかなと感じております。これはかなり数年で変わるのではないかと思うのですね。ですから、次世代の方たちの音楽に対するいろいろな嗜好であるとか、それから場所の使い方、ないしは移動の仕方、こういったものもある程度考えていく必要があるかなというふうに思います。

○今井副会長

宮原委員、ありがとうございました。

引き続き、一通りお話しいただいていいですか。それでは、庄子委員お願いします。

○庄子委員

私も今回のお話を聞かせていただきまして、施設の構成と規模の考え方、運営の仕方、管理運営まで非常に幅広く、大分方向性も見えてきたのかなというふうに思っております。

特徴としては、建てるときに事業運営と同時並行で管理運営計画を設計して、その中で施

設にもその計画を反映していくのではないかなというふうに思いますし、それがやはり今後の音楽ホールですとか、文化施設の整備のあり方なのかなというふうにも思っています。

そういった中で、現在示されている施設構成というのは、整備の方針と考え方に基づいて必要なものというものを積算されて数字としてあがってきていると思うのですけれども、やはり今後の維持運営費、管理運営費なども考えていくと、需要というのもとても難しいとは思うのですけれども、やはり需要の方からアプローチした施設規模がどのくらいなのかというのとあわせて、そこですり合わせていくような形で施設をつくっていく必要があるのではないかなというふうに感じております。

例えば需要からいうと、今の段階で見込める需要というのは、数字を出すことが難しいとは思うのですけれども、それでも最低限あげられるようなところはあげていきながら、その中で需要として掘り起こさなければいけないところですとか、あとは利用者ではないけれども、価値を認めてもらいたいところですとか、そういったところも踏まえて、施設の規模というものを議論していく必要があるのではないかなというふうに感じました。

また角度が違うのですけれども、仙台市にできる音楽ホールということは、東北の観光の中で宮城県の位置づけというのは、唯一東北地方の中では都市観光が非常に突出しているのですね。東北地方の中で求められるものとして、都市型の観光を提供していく。それが仙台の強みであり、宮城県の強みの一つにもなってくるのだと思います。そうすると、都市型の観光地という中で音楽ホールをひとつ位置づけていくということも必要なのではないかなというふうに感じた次第です。ただ、音楽ホールだけが目的になるかというと、やはり世界的なレベルでないと、音楽ホールだけで誘致するというのは難しいと思うので、都市型観光の施設の魅力ある施設の一つとして位置づけられるならば、どういったところがそういった都市型観光の魅力の一つになるかといいますと、やはり観光客で賑わっているわけではなくて、市民の方にたくさん利用されている。市民の方が賑わっている。そういったところに都市観光の魅力のあり方というものがあるというふうに感じているので、ここでももちろん出てきているのですけれども、いろいろな形で市民の方の活動というものを後押しするような、それを裏づけるような施設になっていったらいいのではないかなというふうに思います。

例えば、私ですと、やはり定禅寺のストリートジャズフェスティバルは素晴らしいフェスティバルだと思っていまして、市民の方が担い手になり、楽しむこともできて、さらに外からも呼び込むことができる。だから、震災の年でも多くの人を呼び込んでいました。2011年に来客者数が下がらなかったというイベントなのですよね。ああいうイベントをその施設が後押しするような、支えていくような、事業の中に入れてしまうぐらいの形を示していけるとおもしろいホールになるのではないかなというふうに感じました。

○今井副会長

ありがとうございます。いろいろ具体的なアイデアでおもしろうございました。

それでは、村上委員お願いします。

○村上委員

今の庄子委員と大変近しいのですけれども、今回のこの３つ、本日の課題の施設の構成と規模の考え方、事業運営の考え方、管理運営の考え方とあるのですが、管理運営の考え方はもうプロにお任せするということで、私が一番関心を持ちましたのは、１番の施設の構成と規模の考え方、そして、そこで実際何の事業をしていくかという事業運営の考え方の上位２

つであります。

先ほど庄子委員もお話しになられましたように、仙台の都市型観光の魅力をつくる上でも大変重要な起点となるわけなのですが、経済波及効果をどの程度想定されているか。また、集客というか、交流人口を増加させるということが大変重要になってくるかと思うのですけれども、そのためにどのような想定となっているかということが大変興味があるところでございまして、質問させていただきたいところでございます。この施設構成の規模を見ますと、たくさん盛り込んであり、これだと３万㎡で、だんだん大きくなってくるなと、夢は広がるばかりなのですけれども、大きくなってくるなと感じた次第です。

実は私、話がそれますが、この懇話会の委員になりまして、何か音楽ホールを見なくてはならないと思いまして、５月に札幌に出張がございまして、１泊延泊をしましてですね、Ｋｉｔａｒａホールへ、札幌交響楽団ですが、音がいいと聞いたものですから行ってまいりました。私は余り詳しくないのですが、堪能させてもらいまして、皆さんご承知のとおりかと思うのですが、私は初めてだったのですが、中島公園の中にあって、レストランに既に人が待っているような状態であったり、地下鉄まで歩くのが寂しかったり、そういう意味では、音はいいホールではありますが、その集客や交流人口を増やす経済効果、波及効果があるかというと、どうなのだろうなと疑問に思った次第です。ですから、そういう意味では立地、今回は立地の話ではないのですが、まずは立地が大事であるということと、具体的にどのような機能を組み入れて、どのような機能を外すのか、その街の中と連携させてつくるかということを思った次第です。

最後のページの事業運営の考え方に、運営経費規模というのがございます。一番小さいもので６億円でしょうか。兵庫県だと、楽団含めてですから36億円になっているわけなのですけれども、そういう意味では、先ほどございましたけれども、どれだけこの費用としてかかるものなのかということの中での経済としてどれだけメリットがあるかと。また、市民の中で、市として残さなければいけない機能を補完すると、まち全体で補完するものが何かということを他の力を借りながらできたらいいのかなと思った次第です。

○今井副会長

今、３人の委員からそれぞれご質問、ご意見もありましたので、もし、事務局の方でお話しできることがあればお願いします。

１つは、宮原委員からは、現在の学生は観光ツーリズム、そういう形で日本中に出かけているという点。

それから、庄子委員からは、都市型の観光事業の魅力の中の一つとして考えるべきではないかという点。

それから、村上委員からは、どの程度の経済波及効果を想定しているか、これはこの事業が成功すればそれは上がっていくのですけれども、観測みたいなものがありましたらお願いします。

○事務局（文化振興課長）

様々なご意見ありがとうございます。確かにこれからの需要を支える上では、今の若者のニーズというのは大事で、おそらくホールをつくるまで結構な時間があるのですけれども、その中でも変わっていくのだろうなと思います。そういう時間をとても大事にしなければならないと思います。これはいろいろな仕掛けをつくりまして、新しい楽しみ方を市民に提供

するためのワークショップなのか、シンポジウムなのかわかりませんけれども、そうしたプレイベントみたいなのをしっかり開館までに継続していって、市民とこの音楽ホール像というのをできるだけ共有していくというのが非常に大事なのだろうというふうに思っています。

それから、庄子委員の都市型観光、これも音楽ホールの意義としてとても大きなところでありまして、交流人口の拡大というのもありますけれども、庄子委員がおっしゃられましたように、市民が日常的に来て、それで賑わうということが何よりも大事だと思います。市民に認知をしていただいて、やはりどんな人でも来られるような楽しみ、そういう仕掛けというものをつくっていく必要があるのだろうなというふうに思います。

それから、村上委員はＫｉｔａｒａホール、私も20年ぐらい前できたばかりの頃行ったことあるのですけれども、あの当時は街中に建てるというイメージはなくて、仙台でいえば博物館や仙台二高や美術館がある、あのような文教ゾーンに建てるというのが一般的な考え方でした。中島公園というのはとても大きな公園で、公園施設としてＫｉｔａｒａホールもつくっていますし、北海道文学館も公園内に建っているのですね。非常に当時は羨ましいと思いました。ただ、確かに地下鉄駅は公園の端で、Ｋｉｔａｒａホールはその一番奥で最も遠いのですね。以前、札幌の方とお話ししましたら、季節のいい時期はいいが、真冬は雪が積もると本当に大変だと、雪かきをしないとお客さんは帰れないですしという話でしたので、やはり立地というものは大事だなというふうに思います。あそこを寒いのに歩いていくと、素晴らしいコンサートを聞いても余韻も薄れてしまうぐらいの感じがあると思います。

庄子委員の話にも戻りますけれども、今いろいろなご意見を伺いましたけれども、やはり立地というものが大事なのかなと。これから本気で考えていかなくてはならないというような感想を持っております。

○今井副会長

どうもありがとうございました。

○事務局（株式会社政策技術研究所代表取締役）

今、課長からお話もあった中で、先ほどの都市観光を牽引するというお話し、また垣内委員からも施設の中と施設の周辺というご指摘がございました。仙台のホールは、大変言葉が不適切ですけれども、貧弱な状況にあります。特に大型のホールは非常に脆弱な状況で、コンサートホールでいえば、100人程度の楽団が舞台に乗り、音響に優れたものがないのは事実でございます。ですので、それを担保することは大事なことです。しかし、これからのホールづくりは、街にどのような効果を落とせるかという点、まちづくり事業や文化力活用事業によって、先ほどは楽都界隈と申しましたけれども、魅力ある周辺をつくれるかどうかということが重要になると言えます。兵庫県立芸術文化センターの例でも、西宮駅周辺は同時にいろいろな再開発も行われて大型商業施設もでき、周辺一帯が参加する協議会が芸術文化センターと連携して、様々な文化事業を行っています。さらに周辺だけでない地域の学校などが参加するなど、その輪が広がってきています。そういう魅力ある文化のエリアがつくれないかということで、まちづくり事業をあえて入れているところです。そこで、ホール単体の経済効果だけではなく、その影響下にある周辺全体でどれだけ経済的な効果を生み出せるか、人を呼び込むことができるか、市民が楽しんでもらえる空間がつくれるかということを含めて、総合評価をしていくべきと思います。

○今井副会長

ありがとうございました。

時間が限られておりますので、先に進みたいと思いますけれども、今、ご発言にならなかった高田委員、三塚委員、天野委員に一言ずつご発言いただけますでしょうか。

○高田委員

2018年の現在のこの音楽ホールをつくるための懇話会というのは、今説明いただいて、すごく難しい局面にあるのだなと思いました。というのは、皆様も当然ご存じだと思いますが、インダストリー4.0という、新しい産業革命の第４次産業革命があと10年後に形を呈してくると思うのですね。私ども物流の世界でも、私どものような小さな中小業者であっても、おいでおいでといって後ろをついて歩くロボットなど、そのようなものの導入は当然普通に行われているのですね。ですから、どのように新しい技術の発展をはめ込んでいくのかが難しいと感じました。規模の問題やまちづくりに関してもそうですけれども、発信力とか、そういうものに関しては新しい技術のＡＩとか、そういういろいろなメディアの手段というか、一瞬のうちに世界を駆けめぐっていくことで、仙台市の小さな街角で何が行われているということがわかる時代だから、それはそれですごくいいと思うのですが、箱物をつくったときにそういうものをどういうふうに導入できるのか、できないのかというようなことが選択眼というか、洞察力というか、そういうもの求められるのではないかと思っております。それから、音楽ホールに人を集めるときの交通についてですが、私ども貨物で、常に垂直で物事を考えています。サプライチェーンマネジメントなどは、生まれてからコンシューマーのところに届けられるまでの間をどうやってマネジメントしていくかというような考え方なので、旅客はどうしても水平展開のような気がします。しかし、先ほども申し上げましたように、新しい産業革命の力で、公共輸送機関というか、そういうものは何とでもできる時代になってくるのではないかと思って、集客することについては過疎地にあってもあまり問題ないかなと考えているところはございます。

○今井副会長

ありがとうございました。

それでは、三塚委員お願いします。

○三塚委員

先ほどご提案がありましたが、この音楽ホールを取り巻く論理的な面や、実際運営する面、非常に詳しく提案されたので安心しているところでありますが、私は全国の吹奏楽の役員もしておりましたので、全国の各地のホールは概ね全て行っております。先ほど北海道のＫｉｔａｒａホールのことがありましたけれども、確かに中島公園の中は少し不便かもしれませんが、あそこに行くお客さんというのは大変多いので、パークホテルなど周辺の街がたいへん発展しているのではないかと思います。兵庫にも行ったことがありますが、いいホールには人が集まるのではないかと思います。

実際に具体的な内容までご提案されて心配だなと思うのは、今後のホール運営のことについて大変ではないかと思います。例えば、ベルリンフィルハーモニーでありますとかは、音楽会の当日のスタッフというのが大変多くてしっかりしておりますね。ああいうふうに行うためには、仙台はどのように行えばいいのかなと、運営面で大変心配だなと思いました。

それから、今度仙台に立派なホールができると、全国規模の音楽会も増えてきます。吹奏楽の場合は特に大きい楽器が入りますので、10トントラックが何台も入ることになります。

朝９時から始まって、夕方５時、６時までやりますが、その間に車が何台来るかわからないというような状況なので、車の出入りの安全や駐車できるような場所や、実際に楽器を運んで演奏ステージに行く通路の経路、出入り、安全に回転ができるかどうかということですね。先ほどの提案を見ると、概ね大丈夫かなと思って聞いておりましたけれども、難題はたくさんあるとは思いますが、提案を見る限りは大丈夫ではないかという感想を持ちました。

○今井副会長

ありがとうございます。

それでは、天野委員お願いします。

○天野委員

様々な議論が出ましたので、少しずつ言及したいのですけれども、まず初めに、都市観光という話が出まして、手前ども文化観光局というのが２年前に文化と観光を合わせるということでできたところでございます。文化、スポーツ、観光で新しい価値をつくれないかということで、まさに我が意を得たりなのですが、その中でも都市型観光というのは、リゾートの観光と違いまして、例えば、よく引き合いに出すのですが、我々がニューヨークに行って、マンハッタンに行って、例えばセントラルパークで何を見るかと言ったら、ビルが高いねという話ではなくて、セントラルパークで寝そべるニューヨーカーを見るのですね。ニューヨーカーの日常を見るというところに、まさにみそがあると思うのですね。音楽に置きかえて言うと、仙台市民が音楽に親しんでいるそのライフスタイルを見せるというか、それが観光の種になってくるのだろうと思います。観光客のためにおもしろいコンテンツをつくるということも一方ではあろうかとは思いますが、もう一つは、やはり今のツーリズムというのは、その現地のライフスタイルが格好いいとか、音楽が溶け込んだ街というのはすばらしいなということで世界から集まるということがあろうかと思います。

ただ、もう一方で、例えば三塚委員から話があったように、例えば大きな大会、合唱の大会とかですね。そういったものも実はツーリズムの一環として、庄子委員がいつもおっしゃられるＭＩＣＥみたいなものだと思うんですけれども、そこも非常に大きな価値を持ってくるのかなというふうに思います。そういう意味でも、例えば最近では、仙台市でも定禅寺通りの活性化などに取り組んでいますが、あれは、意味合いとしては民間の土地の開発というのは一定程度技術的にも、テクニック的にも、それからファイナンス的にももう完成されつつあるところですが、都市の内部においてラストフロンティアというか、残っているところというのは公共空間でございまして、公共空間というものがあまり利用されていない。例えば道路なんかがその最たるものですけれども、今からどんどん車が少なくなっていく中で、道路というのはどうやったらもっと賑わいとか、もっと稼げるのという話があるのですが、音楽ホールが出来て、その界隈が今までとは異なる界隈になることで、下世話な話ですけれども、もっと稼げる街になるというかですね。そういうふうになると、音楽ホールをウエルカムと、その界隈の人もですね。というふうになるのかなと思います。

その中で、もし時間があれば、別の機会でも結構ですが、垣内委員にお伺いしたいなと思ったのは、例えば音楽ホールというのは曜日、例えば土日とかですね、音楽コンサートが開かれている時間の前後だけとか、そういうところでの集客がメーンだと思うのですけれども、観光や街の賑わいということを考えると、そのコンサートの時間帯以外の部分とかですね、平日の部分で音楽ホール周辺が賑わっているか、そういうところがまちづくり、街の中のホ

ールとしては課題になってくるのかなと思うので、そのあたりについて、また別の機会でも結構でございますので、いい事例とかありましたらご教示いただければと思います。

○今井副会長

ありがとうございます。

私も一言よろしいですか。

三塚先生からのお話にもありましたけれども、合唱関係の事例をご紹介します。合唱コンクールは県大会、東北大会、全国大会があるのですが、東北大会は３日間、中学校の部、高等学校の部、大学、職場、一般の部と行われます。３日間連続して行われるのですが、その３日間の出場者数は4,000名、入場者数は３日間で3,000名です。これが現在の合唱の東北大会ですね。仙台では、東北大会でさえ大変困っております。今年実は仙台で行われるのですが、入場制限をかけて行わなければならないのです。１日50団体が朝から晩まで演奏を行うことになります。会場も１つしかとれないので、ところてん式にやらざるを得ないわけです。それが３日間続きます。30人程の合唱団が50団体程１日演奏することになります。それが中学生だったり、高校生だったり、大学生だったりするわけですよね。若い人たちが１年間積み上げたものをもってくるわけです。コンクールというのは、演奏時間はほんの10分程度のことなのですけれども、その10分の中に彼らの青春をつぎ込んで、本気でやってくるわけです。その波及効果というか、それはとても大きなものがあって、もちろん何で会場がいっぱいになるかというと、父兄がみんな見にくるわけですよね。東北大会をやるというのは、大ホールの他にリハーサル用の小ホールも必要ですし、待機場所も必要ですし、全館借り切ってやらざるを得ない。逆に、全館を借り切って余裕のある場所がないと、コンクールの東北大会ができない。全国大会は推して知るべしなんですね。全国大会を仙台に持ってきたいと思っています。合唱という非常に古典的な音楽の形態ですが、これだけの若い人達がそこに情熱をつぎ込んでいるという状況、これはホールを建設していく大きな動機になるはずです。

高田委員、三塚委員、天野委員からご意見をいただきましたが、垣内委員、何か締めくくりではないですけれども、天野委員からのご質問もありましたので、一言お願いできますでしょうか。

○垣内委員

わかりました。十分にお答えできるかわかりませんけれども、３点申し上げます。

まず、コンピュータとかＡＩとの関連で、おそらく経済的な効率化ということかと思いますが、実は舞台芸術というか、ライブの実演芸術というのは、正反対のものなのですね。例えば、ベートーベンの第九を演奏するのであれば、それにふさわしい十分な時間と人数が必要となります。経済効率化を推し進めることができないものなのです。ですから、もしクラシック、アコースティックの非常にオーソドックスな舞台を想定した活動をするということですと、本日お示しいただきました資料２にあるような規模の空間と、マネジメントも含めての人数と、お金も必要になるのですね。ですので、実際にこういった大規模なホールは社会に与えるメリットも大きいが、これを建設し、維持していくには応分の負担が必要であるということを最初にしっかりと理解する必要があると思います。今の実態を言うと、全国1,800ぐらいこういう劇場がありますけれども、大体９割を超えるものは地方自治体がつくっています。なぜかというと、市場規模が必ずしも大きくない場合民間で成り立たないので、

民間の企業がこういう劇場を地方にはつくらないのですけれども、それでは必要ではないかというと、地方でも劇場は必要なのですね。ですので、現在、基礎自治体の数は1,700ぐらいかと思いますけれども、それを超える劇場が全国に展開しているわけで、その中で仙台市は将来を担う子どもたちのためにこういうホールをつくろうというのであれば、やっぱり最低限必要なクオリティーを考えると、この資料２にあるような規模は必要なのかなというふうに思います。

それから、２つ目ですが、非常にいいと思う部分なのですが、資料３のところで事務局からご説明がありました貸館事業についてです。これは持続的な運営を考えたときに、非常に重要な概念になります。自主事業と貸館のバランスというふうに書かれていますけれども、実は今いろいろなご議論がありましたように、仙台というのは、ある意味全国ツアーが行われるところですし、2,000席のホールというのは、大きなコンテナを積んだトラックが駐車できるようなスペースも必要です。もちろんコンクールもできますし、若い人たちが見たいと思われるような大規模なイベントもできますし、住民の方々が見たいというのど自慢とか、いろいろなイベントができます。自主事業はやればやるほど赤字になります。なぜかというと、マーケットがなかなか十分にないからです。なので、借りてくれる方々がいるのであれば、いろいろな方々に貸して、使っていただく。それは、市民の方々から見れば、いろいろな活動が提供され、多様なニーズが満たされるということになります。この多様性こそが仙台市民の方々の文化的な生活の質を上げ、それがまた魅力になって、次のステップにつながっていくという可能性を秘めている、非常に重要なご提案であろうというふうに思いました。

それから、３点目ですが、先ほど兵庫の話もしましたけれども、実は兵庫は1995年に阪神・淡路大震災でかなり壊滅的な打撃を受けたのですが、それから劇場が完成するまで10年かかっているのですね。その間何をやったかというと、先ほど事務局からご説明がありましたけれども、ソフト事業を先行させているわけです。ですので、箱物ができるまでにいろいろな形で住民の方々、それは規模の小さい、小回りのきく形でのクラシック音楽であったり、演劇もありましたが、舞台にかかわるような活動をずっとしていて、住民の間に非常に大きなコンセンサスと、需要の掘り起こしにつながったと。需要の掘り起こしによってたくさんのお客さんが来ると、やはりチケットも完売しますので、もっとアーティストがそこでやりたいとか、団体の人たちも使いたいというふうになります。そうすると、また多様なサービスが提供されるので、お客さんたちも来るといういい相乗効果になっているというところがあります。ですので、先ほど事務局からご説明があったようなソフトの仕組みというのは、非常に重要な点だというふうに思います。

公演をどの時間帯でやるかと言うと、意外ですが昼間の時間帯がかなり好まれています。土日も同様ですね。何故かというと、観客は、高齢者の方がやはりボリュームゾーンなのです。お金もあり、時間もある。劇場というのは、必ずその時間その場所にいないといけない。ミュージアムだったら、例えば１か月間展覧会が行われていて、どこか自分の都合のいい日時に行けばいいのですが、劇場の場合は、その時間帯、その場所にいなければいけないということで、かなり時間的制約が大きいものですから、時間に余裕がある方々がいらっしゃることになります。そうすると、高齢の方々というのは割と早く起きて、いろいろな活動をされるので、アンケートを行うと、朝にコンサートを行ってほしいというようなお声もあるくらいで、地方の劇場でうまくいっている劇場は昼間の公演が多いかなと思います。東京でも

平日の昼間はすごく厳しいですね。平日の夜も比較的厳しくて、土日がメーンになるかなというふうに思います。これはやはり時間的な余裕の関係かなというふうに思います。ただ、それはいろいろなやり方があるかと思いますので、仙台市民の方々に即したような使われ方をされるのが一番だとは思いますけれども、一般的なやり方としては割と昼間の方が多いかなということです。

○今井副会長

ありがとうございます。大変豊かな議論ができたと、興味深くお聞きしておりましたが、事務局の方から今までの議論に対して何かお話しがありましたらお願いします。

○事務局（文化振興課長）

三塚委員は吹奏楽で、今井委員は合唱、歌がご専門ということで、なかなか東北大会や全国大会が開けないということは、仙台市の文化行政の課題として以前から受けとめていたところではあります。

三塚委員がおっしゃるように、合唱は人だけですが、吹奏楽はとても大きな楽器をたくさん持っていらっしゃるので、大きなトラックが何台も来る。三塚委員も心配されていましたけれども、11トン車がスムーズに複数台出入りできるというのは、敷地を決める上での大前提だと思いますので、その辺はご安心をいただきたいなというふうに思います。

今井委員も合唱で、東北大会だと7,000人程来るのですか。

○今井副会長

4,000人です。それから、3,000人の観客が来ます。

○事務局（文化振興課長）

3,000人ですよね。仙台の音楽ホールは、吹奏楽と合唱のためだけにつくるわけではないですけれども、あらゆる意味で全国大会のようなものを誘致するということは大きな役割だと思います。合唱と吹奏楽を例にしても、なかなか仙台はホールの条件が整わなくて、仙台ではできなかったということがありますけれども、仙台で開催できれば、これを機会に初めて仙台に来たという方がおそらく何万人もいらっしゃるわけですね。そういう方々にリピーターになっていただいて、仙台を知っていただいて、また仙台に来ていただくということは、観光の側面でも、交流人口の拡大という意味でも非常にいい手段だと思いますので、そういうことは十分に視野に入れていきたいなというふうに思っています。

○今井副会長

ありがとうございます。

時間になりました。お話しになりたい話題がまだたくさんあると思いますが、またこういう議論の機会をつくってお聞かせいただきたいと思います。

３．閉会

○事務局（文化振興課長）

今井副会長、どうもありがとうございました。

委員の皆様、本当に活発なご議論ありがとうございました。

最後に事務連絡でございますけれども、まず、議事録についてでございます。

今回は、今井副会長と庄子委員が議事録署名人となっておりますけれども、署名の前に、事務局で作成しました議事録案を委員全員の皆様にご確認をいただきまして、その後に今井

副会長と庄子委員にご署名いただきますので、そういう手順でお願いしたいと思います。

それから、次の第４回懇話会ですね。今のところ８月10日の金曜日を予定しております。本日と同じような部屋が役所に、この２階に６つあるのですが、現段階で確保できておりませんので、もしかすると旭ケ丘の青年文化センターで開催する可能性もありますが、なるべくこの本庁舎の２階でやりたいなと思っております。改めてご連絡をいたしますので、よろしくお願いしたいと思います。

それでは、以上をもちまして第３回仙台市音楽ホール検討懇話会を終了いたします。
皆様、どうもありがとうございました。